



成人式はなぜ行うの

成人を祝う儀式

大人（20才）になった人をお祝いする儀式のことを、成人式といいます。
 現代では、成人の日、市町村が、その地域の大人になる男女を招いて祝う、儀式のことを成人式といいます。1948年に「国民の祝日に関する法律」ができ、1月15日が成人の日となりました。成人になると、選挙権があたえられます。

一人前の成人として認めってもらうこと

成人式の歴史は古く、貴族が支配した時代や、武士が支配した時代にも、儀式は行われていました。

昔、村では、成人となるためには、一人前の仕事ができないと、認めてもらえませんでした。現代のように、20才になったからといって、自動的に成人としてあつかわれたわけではありません。成人になるための、テストに合格する必要があったのです。たとえば、田植え、草取り、稲かり、わら仕事が一か所にできなければいけなかったのです。ですから、成人になる年れいはばらばらで、男子は15～17才、女子は13～15才くらいでした。一人前と認められると、男子は、それまでゆっていた前がみを切り、大人の名前に変え、家でお祝いをしました。これで大人の仲間入りができたのです。

（監修・青木 国夫）

